



尼崎市立小園中学校 第1学年

社会科通信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 3

初めての中間考査で

しんどかった「気候区名」

「表現力」のなさが出た、「根室とパリ」

野外活動から帰ってきて、すぐにあった初めての中間考査。

君たちにとっては、大変しんどい試験だったと思います。

けれども、しんどいのは、先生たちも一緒でした。いろんな行事の関係でこうなってしまうした。

さて、中間考査の結果をまとめておきます。答案を返却したときにも言いましたが、今回の中間考査では、先生(倉橋)は、平均点を「50点」をねらって作りましたが、ほぼ、ねらいどおりでした(ごめんね。難しいテストで)。

正解率の悪い「Ⅲ雨温図の読解と気候区の特徴」を試した問題から説明しておきます。雨温図の読み取りについては、よくできていました。しかし、教科書よりも、正確な気候区の名を答えなければならない問題については、ほとんど全滅に近い状態でした。これについては、授業の時に使った地図帳をもう一度、ノートと一緒に、ていねいに見直しておく必要があるでしょう。ちなみに、ここでの全問正解の人はいませんでした。

この「雨温図」のようなグラフなどを読みとる学力を「資料活用技能」と言います。今後も、グラフだけでなく「写真」や「図」「統計資料」などから情報をつかみとる練習を授業でしていきます。大切なのは、授業中に『ぼーっ』と、聞いていないで、必ず、先生が

指示したところをしっかりと見て、自分で先生の質問に答えるように考えてください。それが、この「資料活用技能」の学力をつける第一歩でしょう。

次に、君たちをこまらせたのは、「根室とパリ」の問題でした(正解率では、この問題が最も低かった)。この問題では、北極に近いパリの方が、なぜ、根室よりも温暖な気候なのかを考えて、その理由を説明する学力を試しました。授業でも、同じことをしたのですが、ただ「パリの方が根室よりも暖かい」と覚えているだけでは答えることができない問題です。大切なのは、結果よりも、気候の違いの「原因」や「原理」を説明できるか、どうかだから、このような自分の文章を書いてもう問題形式にしています。

大半の人が、説明文にならない「日本語」をならべていました。自分の文章で、自分の考えていることを表現する学力をつけてほしいと思います。このことは、「社会的な事象に対する関心・態度」を試す課題でも、同じことが言えますが、「社会的な思考・判断」の学力の重要な内容は、客観的な資料(知識)に基づいて、論理的に説明することができること(筋道を立てて説明すること)と、迷うような場面で、筋道を立てて考えたことをもとにして決断すること(この決断の方法に客観性と論理性および公正さが必要)です。

地理的分野の内容の多くは、理科的な内容が多くふくまれています。あるいは、時差のような「算数」の内容もふくみます。歴史的分野や公民的分野(3年生で学習します)もふくめて、社会科は、このように他の教科の学力も必要な内容をもつ「総合教科」です。ですから、よく言われる「暗記教科」だと思っています。と、わからなくなりますから、授業中に「考える」ことを真剣にしてください。特に、先生の質問には、「考えて答える姿勢」が、学力をあげる重要なポイントになるでしょう。



1学期中間考査 社会科 得点分布(3~6組)

